

胃癌でのメチル化に関する代謝酵素の発現に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年05月29日～2031年03月31日

〔研究課題〕 胃癌でのメチル化関連酵素の発現が臨床的予後因子に与える影響についての検討

〔研究目的〕 胃癌では、対象となる分子にメチル基を加える(メチル化)作用をもつ酵素の発現が高いものが知られており、癌の悪性度や予後と関連することが報告されています。胃癌組織は、癌細胞や間質細胞など多彩な細胞からなりますが、過去の報告では、胃癌組織の中のどの細胞における発現が臨床的に重要であるかは明らかにはされていません。これは、病態の解明に加え、将来的な治療ターゲットを考える上で、重要な所見になります。こうした現状をふまえ、当研究では、胃癌の診断で切除術を受けられた方の癌組織を対象としてメチル化に関連する酵素の免疫染色を行い、胃癌組織の構成細胞における臨床的予後因子に関与する可能性について検証します。

〔研究意義〕 上に述べた通り、臨床的な悪性度や予後に影響を与えるメチル化に関する酵素の発現が、胃癌組織のどの細胞に由来するのかを明らかにすることができれば、日常診療における診断や予後予測に加え、病態の解明、治療の開発に貢献できる可能性があります。

〔対象・研究方法〕 2000年～2015年の期間に、帝京大学医学部附属病院で、胃癌の診断で切除術を受けられた方を対象とします。摘除された腫瘍部分について、免疫組織化学的手法を用いて、メチル化関連酵素の蛋白発現を調べます。これらの結果と、臨床病理学的因子、生存期間、他の癌関連蛋白発現との比較検討を行います。

この研究は、厚生労働省の「人を対象とする医学的研究に関する倫理指針」を遵守し、倫理委員会承認の上で実施されます。特に患者さんに新たにご負担いただくことはございません。この研究のために、ご自身のデータを使用されることを望まれない場合には、主治医にお伝え頂くか、下記の窓口までご連絡ください。尚、使用を望まれない場合でも、匿名化が施された後は、情報・試料の破棄はできませんので、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部病理学講座

〔個人情報の取り扱い〕 研究結果は、個人が特定できない形式で、学会や論文において発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後10年間保存されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 沼倉里枝

研究分担者: 宇於崎宏、渡邊雅人、菊地良直、安井万里子、渡部朱織、加藤雅弘

所属: 帝京大学医学部病理学講座

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 48210]